

昨年相模原の「津久井やまゆり園」で障がい者が46名も殺傷されるという痛ましい事件が起きました。さらに不幸なことに、この原因が精神障がい者とその処遇にあるかのごとく流布されました。そして精神保健福祉法が改悪されようとしているのです。だが、この事件の背景にあるのは紛れもなく『優生思想』です。したがって再発防止策は、語られることの少なかった優生思想を理解し、これまで取られてきた優生政策の誤りを正すことから始めなくてはなりません。

(公社)大阪府精神障害者家族会連合会では相模原事件が1周年を迎えるに当たり、【優生思想】の問題を取り上げることにしました。

講師には“優生思想を問うネットワーク”で活動されてきた利光恵子さんをお願いしています。さらに、精神病院を退院する際に不妊手術であるパイプカットを強いられた方が証言くださる予定です。日本では優生保護法の下で16500件もの不妊手術が行われた(『部落解放』2017年5月号参考)とされながらも、その実態はなかなかつかめなかったのですが、今回、貴重な証言をお聞きすることが出来ると思います。下記のように実施しますので、皆様、是非ご参加くださいますようお願いいたします。

特集

優生思想

参加費

無料

— テーマ —

相模原事件の背景にあるもの 優生思想

2017年 **8月19日** **土** **13:30~**
(受付13:00)

アネックスパル法円坂 6階 12号室
地図は裏面参照

第Ⅰ部

① 利光恵子氏 講演

第Ⅱ部

- ② 体験証言
- ③ 質疑

利光 恵子 (としみつ けいこ)

立命館大学生存学研究センター
客員研究員、薬剤師、「優生手術
に対する謝罪を求める会」会員。
著書に『受精卵診断と出生前診
断——その導入をめぐる争いの
現代史』(生活書院、2012)、『戦
後日本における女性障害者への
強制的な不妊手術』(立命館大学
生存学研究センター、2016)。

▶ 次のような問題点があります。

1 精神障がい者への攻撃

- 衆議院議長への手紙は優生思想そのものだったにもかかわらず、危険な精神障がい者であるかのように扱われ措置入院させられました。
- 犯行は計画的で素早く実行されました。当然ながら責任能力はありとされました。ところが、当初マスコミなどは“ニタツと笑う犯人”の映像を繰り返し流し、“何をするか分からない精神障がい者”を印象づけました。
- 退院しても家族がつきっきりで世話をしなければならぬほど支援がない社会で、容疑者は退院後すぐ一人暮らしを始めました。そんな彼に支援が必要だとして精神保健福祉法を改正すると政府は言い出しました。これは支援といいますが実は監視であります。



2 相模原事件、問題の本筋は『優生思想』だ

教育

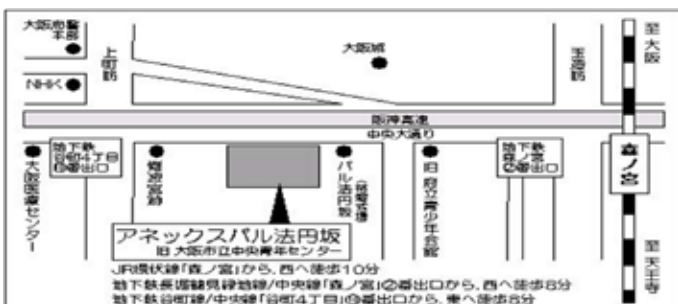
この事件を引き起こしたのは「障がい者は役に立たない」という優生思想です。過去にはこのような思想家は沢山いましたし、現在も彼の思想に賛同するものもいます。ヘイトクライムという危険な風潮の一つです。過去にナチドイツでこれが実行されその犠牲者は一千万人にも達するという説もあります。戦後ドイツはこの誤りを徹底的に教育しました。日本でも優生保護法の下、強制不妊手術や中絶が1万人を超える人に実施されました。しかしこの誤りをあまり教育せず、『優生思想』の名前すら知らない人が大勢いるのです。結果、犯人を措置入院させるという誤りを犯したのです。

謝罪と補償

ドイツだけでなく多くの国で強制的な不妊手術や中絶が行われてきました。しかし、ドイツなどではそのことに謝罪し被害者には補償をしてきました。日本はただ優生保護法を母体保護法とただけで、謝罪や補償は一切ありませんでした。



優生手術の謝罪を求めた佐々木さんと利光さん
「忘れてほしゅうないより」



主催：公益社団法人 大阪府精神障害者家族会連合会

お問い合わせ：06-6941-5797